

RPSJ NETWORK

日本鉄道保存協会 会報

Railway Preservation Society of Japan

2017年8月号

「わかりきったこと？」

わたしたちの活動は、いま新しい一步を踏み出そうとしています。皆さんと一緒に喜んでおります。だが、ひとつだけ心に留めておきたいことがあります。

わたしたちの持っている貴重な遺産を、床の間のお飾りものとして眺めているだけでは、それは死んでしまうのです。日常生活の中に取り入れて、手を加え、面倒を見なくてははいけません。それから、それぞれの場所特有の個性を大切に守らなくてははいけません。

小池 滋 (顧問/英文学者・東京都立大学名誉教授)

そんなことわかりきっているよ、と言われるでしょう。その通りです。ごく当たり前のことなのです。でも、わたしたちの周囲を見まわすと、この当たり前のことが無視されている例が多すぎるくらいあります。

わたしたちが活動を始めた時の初心を、失わないよう、いつも気を付けなくてははいけない——このわかりきったことを、今更ながら痛感しているのです。

2016年度総会を開催 10月20日(木)~21(金)

事務局 米山淳一

日本鉄道保存協会 2016 年度総会・見学会が博物館明治村と京都鉄道博物館で開催されました。全国から加盟団体、賛助団体、友の会会員、オブザーバーら約 80 名が集い情報交換や交流を深めました。

1日目 総会・見学会、交流会

10月20日(木)、博物館明治村の旧三重県庁舎(国重要文化財)で総会や明治村から開催地報告、さらに遠軽町、小坂町、新津鉄道資料館、東武鉄道から活動報告が行われました。

中でも遠軽町丸瀬布憩いの森は、台風の被害を受け雨宮21号が動態保存されている園内の軌道の大部分が流出した報告があり参加者の同情を集めました。また、小坂町は「小坂レールパーク」の順調な運営状況、新津鉄道資料館からは特別展や新たな車両展示、東武鉄道からは来年夏に鬼怒川線でのC11 207号蒸気機関車による「大樹」号の運転計画が発表されました。会場からは大いに関心を集め、2017年度の

総会・見学会は満場一致で東武鉄道と隣接する足尾歴史館(日光市)に決まりました。

その後、明治村自慢の歴史的蒸気機関車12号と5号の同時運転を満喫しました。交流会は、名鉄ニューグランドホテルで盛り上がりました。合わせて急遽、丸瀬布支援のためのご寄付を参加者で行いました。

2日目 京都鉄道博物館見学

翌21日(金)は京都に移動、午後1時30分から開館したばかりの「京都鉄道博物館」を見学しました。C62形蒸気機関車、80系湘南電車、0系新幹線ほか、国鉄時代の名車や国産蒸気機関車で初めて国重要文化財に指定された233号の雄姿に感動しました。館内を見学後、夕方に解散になりました。

博物館明治村、京都鉄道博物館、JR西日本の皆様に心よりお礼申し上げます。



総会は重要文化財の旧三重県庁舎を借りて開催された。高い天井とシャングリアが目を引く。'16.10.20 P:名取紀之



京都鉄道博物館の見学会では広い館内をたっぷり時間をかけて見学することができた。'16.10.21 P:米山淳一



◀明治村の「名古屋驛」の古風な腕木式信号機。ディスプレイではあるが最高の小道具となって見学者を古の世界へと誘ってくれる。
'16.10.20 P:名取紀之

▶総会の開会に先立ち挨拶される菅 建彦さん(当協会代表幹事団体=交通協力会理事長)。
'16.10.20 P:米山淳一

▶開催地報告をされる吉田善一郎さん(明治村所長)。
'16.10.20 P:米山淳一



2016年度総会・見学会 ダイジェスト



総会会場となった重要文化財の旧三重県庁舎。明治村内の保存建造物の中でも最も大きな建物。
'16.10.20 P:名取紀之



交流会で挨拶に立たれる中川 武さん(明治村館長・早稲田大学名誉教授)。
'16.10.20 P:米山淳一

古典客車3輛を牽いて鑿鑿とした走りを見せる1912(明治45)年BLW製の9号機。2010(平成22)年から5年近く休車となっていたが、2015年3月に見事復活を果たした。
'16.10.20 P:名取紀之



▼名鉄ニューグランドホテルで開催された交流会はたいへんな盛り上がりとなった。
'16.10.20 P:名取紀之



明治村の京都市電(N電)2輛も再び動態となっており、現在、村内の動態保存車輛はすべて復活を遂げている。折返しのたびに“ボール回し”が見られるのも博物館明治村ならではの。'16.10.20 P:名取紀之



京都鉄道博物館での見学会。館内の解説をされる三浦英之さん(京都鉄道博物館館長)。
'16.10.21 P:名取紀之

交流会では急遽、丸瀬布いごいの森の台風被害への義捐金を募り、あっという間に62,089円が集まった。後日、遠軽町の佐々木修一町長から感謝状を頂戴した。



甚大な台風被害を受けた丸瀬布いこいの森

2016年8月、台風7号、11号に続き、迷走していた9号も北海道に上陸、いずれも北見地方を直撃するかたちとなり、会員の遠軽町丸瀬布いこいの森も甚大は被害を受けました。報道によれば石狩川をはじめ道内28河川が氾濫したとのことで、根室本線、石北本線も不通となっていました。丸瀬布いこいの森を流れる武利川も溢れてバンガロー・オートキャンプ場側のエンドレス軌道を直撃、恐

ろしい濁流が軌道を飲み込んでしまいました。

不幸中の幸いで、武利川が氾濫した対岸に位置している機関庫には被害が少なく、雨宮21号をはじめとした保存車輛は無事でした。遠軽町では罹災したエンドレス部の復旧方法を模索するとともに、機関庫側・武利ダム側の半周を走る暫定運転で雨宮21号の運行を再開しています。



信じられない姿となってしまったバンガローエリア側のエンドレス軌道。枕木はほとより、レールも再使用は不可能だという。

P：丸瀬布総合支所提供

活動報告では丸瀬布総合支所産業課の上戸係長がパワーポイントを使って罹災状況を説明、そのあまりの変わりように参加者の皆さんは言葉を失っていました。



ドローンから見たいこいの森バンガローエリアの惨状。ランドマークだったコンビネーショントリム(画面中央)周辺もまるですっかり水没してしまった。

P：丸瀬布総合支所提供



▲パワーポイントを駆使して罹災状況を説明する遠軽町の上戸智仁さん。

'16.10.20 P：名取紀之

開館後1年の京都鉄道博物館

平成29年4月 公益財団法人交通文化振興財団 京都鉄道博物館館長：三浦英之

京都鉄道博物館は、昨年4月29日にグランドオープンし、1年が経過いたしました。本年3月31日までの開館初年度では、目標を上回る141万人のお客様にご来館いただき、ご年配の方から小さなお子様まで幅広い年齢層のお客様に楽しんでいただくことができました。海外からのお客様にも大勢お越しいただいています。

この間、交通科学博物館から移設し展示しています230形233号蒸気機関車が国の重要文化財に指定されました。また、当館は、国土交通省が制定する日本鉄道大賞、関西元気文化圏推進協議会が制定する関西元気文化圏賞大賞など、各方面から、様々な賞をいただきました。このように、開館初年度は順調な滑り出しとなりました。



重要文化財(美術工芸品)に指定された230形233号。

'16.3.25 P：名取紀之



京都鉄道博物館の賑わい。

'16.10.21 P：米山淳一

ただ、これまでは話題性もあり、大勢のお客様で賑わいましたが、博物館の真価が問われるのはこれからだと認識しています。

今後、企画展の充実や常設展示の改善はもとより、おもてなしのレベルアップ、楽しめるイベントの実施などにより、「一度は行ってみたい」、そして、「一度来たらまた来なくなる」博物館となるよう全力で取り組みます。

また、博物館の本旨をふまえ、資料の収集・保存を体系的に行うとともに、調査・研究にも積極的に取り組み、全ての年代の方に、生涯学習の場を提供いたします。

さらには、基本コンセプトである「地域と歩む鉄道文化拠点」に則り、地域の学校や周辺施設、地元企業等との連携を強化してまいります。

法人化の検討状況について

本年度前半に一般社団法人を設立し、9月の総会後に全会員が新法人に移行することを目標に作業した結果、すでに定款案も出来ていますが、全会員の理解を得て進めるため、設立手続きに入ることを暫時見合わせています。

定款案の骨子は次の通りです。

一般社団法人日本鉄道保存協会は「歴史的車両、構造物、建物、資料など鉄道に関わる文化遺産の保存と活用を推進するとともに、これらの活動に携わる団体等の交流を促進し、も

って鉄道文化の発展に寄与すること」を目的として設立し、必要な事業を行います。現在の会員、賛助会員は全員新法人の「社員」となるほか、新たに個人の「社員」も設けます。最高機関は「社員総会」ですが、日常業務遂行のため「理事会」を設置し、法令の定めに従って所要の経理を行います。これにより、意思決定、会務運営、財務処理の透明化を図ります。

(菅 建彦)

旧敦賀港線の活性化調査に協力

「巴里も倫敦も敦賀から始まった」と敦賀駅の観光ポスターが教えてくれました。そう、明治15年～中期まで敦賀港駅(金ヶ崎駅)は欧州の玄関でした。その栄光の歴史を活かしたまちづくり活動が始まっています。2022年度3月の北陸新幹線敦賀開業予定を睨んで、福井県、敦賀市が敦賀港線の活性化に力を入れています。現在、敦賀港には当時のレンガ造ランプ小屋(明治15年・国登録有形文化財)が保存公開されていますが、一層の魅力づくりのために蒸気機関車の運転を計画中です。当協会では、福井県交通まちづくり課からの依頼を受け、所有する車輛や福井県内の車輛を対象に動態可能性の調査を行う予定で調整中です。

(米山淳一)



敦賀港に残るレンガ造のランプ小屋。

P: 米山淳一

RPSJ information

2017年度総会・見学会のご案内

事務局

2017年(平成29年度)の日本鉄道保存協会の総会・見学会の予定がまりましたので、下記のとおり概況をお知らせいたします。

東武鉄道が平成29年8月10日から東武鬼怒川線(下今市一鬼怒川温泉間)にSL「大樹」を運行するのにちなみ総会を開催いたします。合わせて見学会で足尾歴史館、わたらせ渓谷鉄道足尾駅等を訪ねます。皆様、ぜひご参加ください。(詳細は、追ってご案内状でお知らせします)

記

●1、総会・交流会

日時:平成29年9月29日(金)14時～ 場所:東武ワールドスクエア

宿泊:東武鬼怒川荘または旅館

●2、見学会

日時:平成29年9月30日(土)9時～12時30分(昼食含む)

場所:足尾歴史館、わたらせ渓谷鉄道 足尾駅、鬼怒川駅転車台、下今市機

関区(オプション)ほか *SL「大樹」乗車 鬼怒川温泉駅14時30分発車



いよいよ営業運転を開始する東武鉄道の蒸気機関車C11 207「大樹」。

P: 米山淳一



足尾歴史館を走る足尾銅山時代のAフォードのガンリン機関車と客車(復元車)。

P: 米山淳一

■日本鉄道保存協会 会報 2017年8月号 編集・発行/日本鉄道保存協会

事務局/〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル9階903号 公益財団法人 交通協力会 気付

電話/03-6269-9808 FAX/03-6269-9809 RPSJ.tetsudo.hozon@gmail.com

※常勤者はありませんので、電話での連絡は下記宛でお願いします。

米山淳一(事務局長):080-5525-1571

菅 建彦(公益財団法人交通協力会理事長):090-9101-3267 ホームページ <http://www.rpsj.jp/>